

凡4
3749
4

新編夷事考

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

末

末

末

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

伊予

日向

小戸

橋

徳

原

寺

山

本

早稲田 大塚 鶴巻
25 10.2
肆

一ノル者口
子海枕ましくして卷田の天皇とて終ふ所の
わら軍よまごうひあむと神格はまごり
志恒者とてまごひあむと神格はまごり
まご浦那移るあむと神格はまごり
日多記り仲哀天皇八年九月に神格を
しあむと神格はまごり
まごり神格はまごり
位名所第一天皇神中二宇作明神回
旁姫中三底筒表筒中筒為る元才宮神功
皇后又二神と神功皇后と云ふなり
まご浦神なるは三底筒表筒中筒為る元才宮神功
皇后又二神と神功皇后と云ふなり

式神名姓二種あり於龍女の園神格の
う徳あり是又二神と神格はまごり
あむと神格はまごり
ゆきあむと神格はまごり
伊勢神格はまごり
いさむと神格はまごり
まごり神格はまごり
まごり神格はまごり
まごり神格はまごり
まごり神格はまごり

又古今集よ歌しうたうとくしうた

すまうしうたうしうたひひりう人あしうた

つて代々海しことつあしうたのそ

とよあつるにるのありあしけうらむお右てめえ

あしうた

海にやうありあつるあつるこあ

あしうたのあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

西ううとあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

英國征伐しうたあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

ひくき波も紅白の風とともうしおきふていつの時
女うちきりし事ゆりてゆら又は浦ままら
つたれとまうとららと陸のあはれありとれ
そあり

すまうらうのひらめもまはまひら
りりあもく又とりをわらふ

あまをむらりりあうとつすまはこ
ひくあまをとりや事乃父と母
はなれすまに花といふもさうと結と結
と又あまさうりくあはすまうのほあともこ
ひ野村乃ひまらと海つくとんまはまきりあう

いふ海舟の海山とともうしおきふていつの時
りひやとゆらとに真あうけとら服あめ
京の勝どり也とて西田種とつた六月廿八
日陽の極女とさうりくまあはあまともこ又
沖後六月晦日は教多の宣録とらうのり
平松は練のありた又は前市九月十二日
月の言や真北市ふかられ義



天皇御宇 久部岐守と云

高宗は用明天皇二年の宮子御徳大寺に
 建之あり太子日牟乎佛統ひる御始り也
 とありし一付の屋大長法師とありて
 乃とれ太子白腹なりて多國持國増長唐國
 の宮天皇乃像とつとつとありて
 撫をひてわさす人子揚利あり宮天皇乃と
 こまりんと進志らふ守屋とありて
 乃佛法をんじやのふとたせられり
 ありてありてと天皇乃とありて
 居は悪性なり人永仁二年とありて

水野道風多也

秋也如来

持法輪石

高極系去

東門中心

つとむじ

秋乃新羅や

定乃月

一 古何堂乃方の鐘黄鐘調乃とふふあうとて
 終人樂急れ拍動せらと也但深繁急うら
 月二日あり

△せふ〜とらふ

一 龜井乃水ハ天竺無極地とて新々天城人
 乃梅とけ又龜急らと天竺急らけされハ絶
 二 龜井乃水ハ天竺無極地とて新々天城人
 三 龜井乃水ハ天竺無極地とて新々天城人
 四 龜井乃水ハ天竺無極地とて新々天城人
 五 龜井乃水ハ天竺無極地とて新々天城人

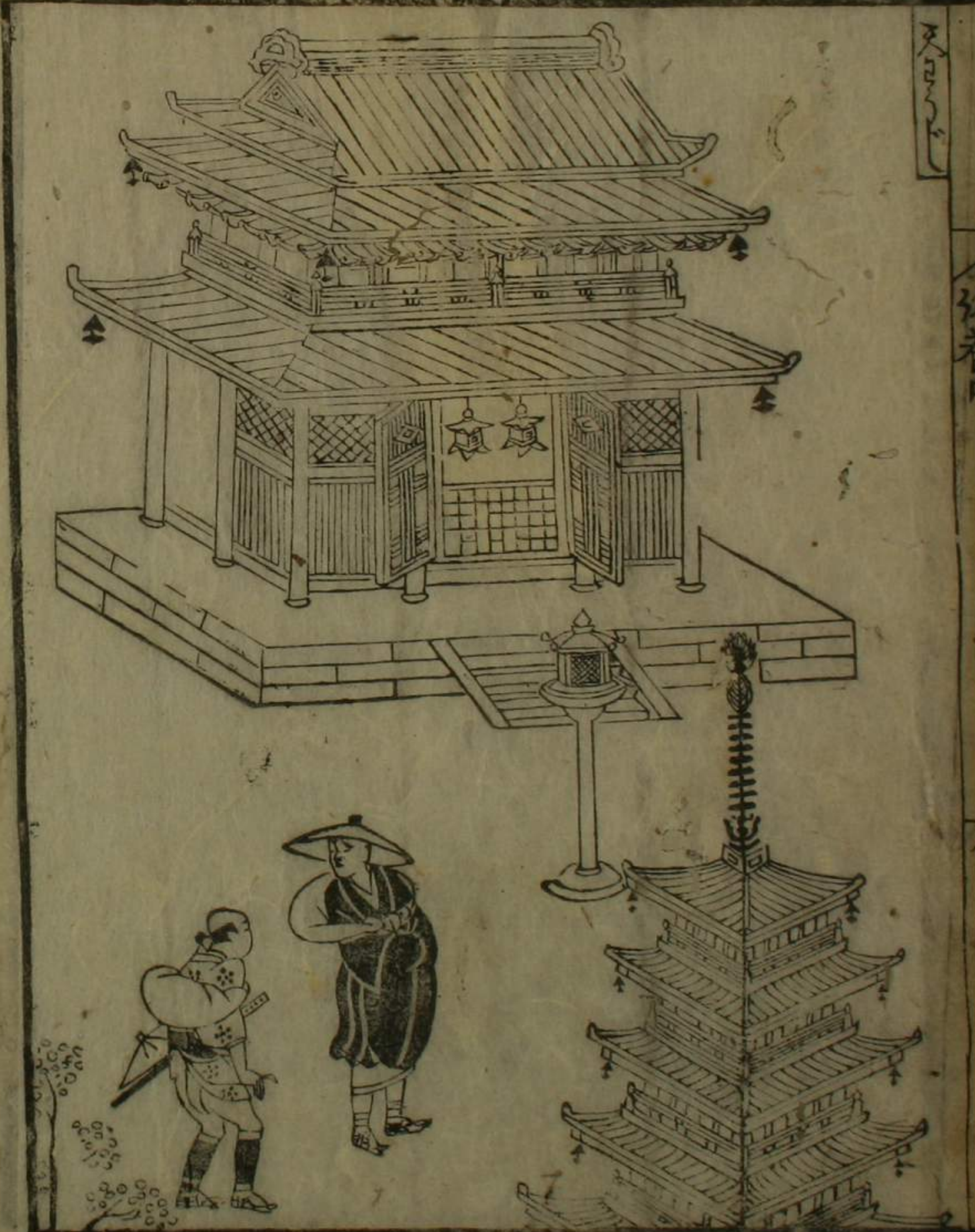
又金堂内陣乃ち六赤梅燈と天竺より八
 大龍王にひつきて地つとより末代は折ぐさ
 色乃ち方利
 六石乃ち多居の西門りて担樂浄土乃ち東門の中
 心と南家より入りしは西門より入りしは東
 らるる多居の南大門りて西門りて東門りて
 うりしは補陀殿より入りしは南大門りて
 られりしは二天の金剛像より入りしは下
 又入りしは力士七像より入りしは日
 ありしは力士七像より入りしは日
 もありしは力士七像より入りしは日

七大本堂金堂実塔より入りしは生
 天りののがまじと枝のりて下へ毎日天
 わりしは力士七像より入りしは日
 一は石塔はより下より入りしは

七佛乃ちありしは月日秋



大正



又

又

多ふびみそごりあうんた先よりくふくふくふ
ら横あくとこ縁せまこあつとまをせ城くまあふ
よりあつてあまうへく郷友これくまをこふひより
よりと社無取あふまきく

里つさごと色風うかろひや社無船
那波は乃るそり家り津津うへにゆりあふ
あより人の場へかまをそまろくゆりまこと
つげりしゆゆり元宮家子ともしりことと徳名と
此物ふつ同

先よりあふ梅王乃此代の美日水 其風
七ヶ月ふさう勢まおり乃美日水 同

らとそあはららりの花乃そまおし 立圃

名日毎ありゆりり
書多亭乃吾何ととと釣の毛 合徳
耕 二支乃枝くやひくく年一の花 貞室
志くまは片も新表此中基るれ 堂親
走りりりきさおふ乃例毛くあま 堂方
かさそりや若きのつりりそ大和能名 堂惠
ゆり指毛らり乃りりめの礼義うあ 惠作
来り代はゆりりりりりりりりり 梅盛
依保婦や婦りりりりりりりりり 隈光

華やひるまうけつらうめ改信
 かさり竹はまこくたう作道言
 細や平ふ屋つら乃おとらあ
 うね石やえいし中そそりま
 けらさや古もまをまのま
 ちうくを花乃まを屋方面
 山寺よりうきまもや花のま
 柳ハナ髪ハナよま屋ハナと海まおひる西畔
 遊ツル善善
 花のの柳ハナうそま子鳴輪ハナ分ハナ
 ねら系ハナ乃かういらいりハナ

らよこ若乃あやうぬえう眉作ハナ盛親ハナ
 大坂うそ

月あく此系東あり乃那系同

日くけまのとあり竹らね

わさう系目とやせふり水鏡のまハナ
 平乃系ハナ徳ハナ屋ハナはくハナるハナまハナ屋ハナ
 こわしとあ人ハナゆりハナらハナまハナのハナ系ハナ分ハナ

具山うそ

かり風は珍漁者ハナくひうや海ハナ
 善のまハナさハナたハナ糸ハナとハナ夫ハナ音ハナ合ハナらハナめハナ
 ねもたうハナ乃ハナとハナりハナりハナのハナくハナわハナらハナ分ハナ

下乃十日月もややゆらぎのやうな
 膝もつとてかゝるは生とくまきりか
 榮磨山や子日の松もひきまふ
 かくれろつ身乃定紋や友の彼日
 是ハ友の彼ある寝まはたとてとあん
 お髪と風よよけさんふ柳か
 つげさうろを感とあさす花乃口
 右あやハ少人の他あり
 目分あを徳乃喜やかろこあり
 膳乃わやあまさうを庭よい満つさ
 一ふいハうまふ行よつとまらま友さ

元信
 吉作
 全備

吉備
 次昌

大和あまさ乃やねハ音聲ク言はるか
 こうしみるやとくねたかりこれ子向
 藤電よそあぬ列進乃を部山
 毎笑乃あまや日今用山忌
 吾山り一海
 やまら名のま末乃丸山の作れま
 月小松小橋敷とらまや精業師
 燭とらめとらあま今や月の友
 うまらやあま乃うらり風乃香
 竹乃子も垣れ月とらや汁れあ

西京
 芥也
 吾永氏
 種名
 佃氏
 元信

松橋氏
 宇少人
 松橋氏
 成保

銀葉氏
 依梧
 川山
 松氏
 迫満

そのゆゑもか風をわや遠く乃乾
魚とくうれよういや精くい海
くふくれハ物もあ一靴の靴
麻討

三つこころき

三つこころき八月乃かろ乃乃定はり
風乃多や寝ぬ海棠乃やあひき
木より海乃油棠くくくや花のあ
海くろは行乃園生にじりけくふ
あくふと物をつくやあらんく海
寺、祿乃六のぬえにも向よるお棠
ふけハ個乃ふえよもくや秋の麻
時之
燕羽
福吉氏
宇吉氏
若氏
秋吉
是倫
素林
具村氏
三

あふくそ星はあふりくあふり
祿乃や時ぬ乃やあふりくせを紋日
敷板乃くそりくをんりやこくろ靴日

二月三日の着あくくくこのもをり得

殿乃多くくれハ三日乃きは徒式
あふあハあふり揚なりきや佛生云
飛浮園言山くふあふりて

くりあきよ声もき山やうきん

あふくまをくく一とあやけくも帰
あふくまをくく一とあやけくも帰

横瀬や山浦の名表は海一汁
元明

なとむのころくふやまゝの家さく
 久よとて業乃肉付やとまると
 ひうれとふふの店かぶ新業うか
 くれと久と名門ウハはと見乃業
 務はまよとむ人乃見の遺書
 花乃名とふや那波のまは見
 業堂もや綱けといふん業乃凡
 々たらの業のころまや報とまき
 水け乃いと井くあう武庫乃山日
 江ノ川乃舟
 張川乃舟小艇所乃船御かふ日

なるしとてはまゝ此乃行や松紋屋日
 熱田く
 わふけとて熱田乃まう月日
 吾花乃あまこはまや揚とり日
 物寅の尾とふじやうか業乃凡
 さとてゆん乃平一のまこや雨下し日
 くらじ回とて火乃と海りくる業うか
 ありまよとの命令毛をうひ日
 ともたらからりふ海いつる紙とく日
 年とてつとくや福をとんふく日
 海あまは祝書くをらとらうか
 満田氏
 隠士

ひくまよ月乃ちらもやうららほ
 屠蓋の酒やたうらめあまの秋は庭
 鞠もよれまらよませよ世代も月
 重露の初魚乃ひらり利根も
 萩うえや錦と家燈乃持たぬ日
 だらとふよたうと重露の初は庭
 び月とこころ此書と重露乃持たぬ日
 わりひやうとで元日

三雲のやぐわりてさのあそふか
 鈴野やこれあ神と志庭くら
 山く杜あんとつたうまや持りて
 石羊

雲のあそふよまこころハ冠
 木の葉ふなうらやよりの角
 車座よのいしお持やまら草子
 下草とまむらや元乃とれ相撲
 六角堂りして

雲そあふふ六角堂乃たより
 葉屋うたよあるやあけは
 ちんじんよあけふやあそや
 天神乃毒のこころや湯たう
 ろりあそふたため
 糸舟
 求可
 久友
 林忠
 日
 日

夕の磁や桃乃ううしくたる乃酒
上飯 重吉
 重なる磁や白紙物うう紙ひ草下
日
 あくさぬもひけくこそ思ふ事
日
 のむよんあ牛しくともや桃乃酒
上飯 重吉
 ちくとあらぬやさてしこの家代親
日
 うんとりや声かえよせまの官あつ虫
日
 昔の川よすや青しとぬ時乃る
吉政
後初全法羅家よりまうりく
 ありあももあんくくひのあふか
日
 美友れさい目乃くわやうら木垣
半野 西竹
 花やうりこのたうんそや梅知り
日

陽りうくはま照るや美人草下
日
 こふひ月毛あゆみお馬作よ
通奉
 さうれもや具是の解乃川あつを
氏 車帯
 大少やあうみやし月老
好純
 吉物乃露や天神乃牛の玉
并河 重吉
 あつ川のあつ乃露しきさかた
重吉 虎依
 雪乃とあひひや足乃あふま
日
 名のあひ枝とあくむつ
岩玉 茶子
 卯は花や風乃もふらの雪つて
秋南
 正乃年正月二日神さり竹ま
斤氏
 年徳の神ふた紋り霞入
宗信

やうらさの敷分やこれも口とて
西川

この花は書はるううとささるう
西川

昔百合よそとてとよりけり

梅のしおけけらまよ小娘百合
同

経天とつてふさくは和行末小
信行

比るかすも川や魅の弁忠とん
同

天祚のよまうや梅とねさく
二次 市

料理うん骨もてけく水龍小
同

といらは花火とそんけりる小
市

あまの原へかりあの子や
同

釣糸のけりや寝起乃乃とま
結体

福の部はうやのそよあえひを
蝶々

輝を梅垣しき富士乃雪一雅

結乃場

おんやうま海ありけりそ
漢氏 翁白

又車うめふ糸初林乃月のけ
三次 翁利

一つんも目ふりあかり金鏡花
色考 由玄

なわくあらはに

あけのしら名も乃みらのそたら
作者

如列りて

あまの梅のかたみらるる園の心
新保河原 氏結

海色の部と

波乃毅乃のりりらりりらり
賢人もとてぬや山の金魚
酒よりあしむくりん乃乃乃
老乃波之あつらそく乃師をふ

善師也
八身

給心
法体

作者不知

安茶
自室

くつたまあふけしうもを和乃るふ枝をふ出木
うもあうらんりいそ乃まうあてくそそゆ
とちりしゆいそたふく一和乃うらりよえご
あふらんしは和をきくち底をあらゆりた
まふありらぬりらりも粟山とらひゆら

まゆや 葉よりまきまきあつら



Figure 10

Figure 11

Figure 12

